

平成26年度 キッチン調査関連・研究活動報告書

# 働く主婦と家族のためのコミュニケーションキッチン

～ 家族をつなぐキッチン ～

インテリアコーディネーター協会関西

2015年3月31日

# 働く主婦と家族のためのコミュニケーションキッチン

---

～ 家族をつなぐキッチン ～

## 目次

1. はじめに	2
2. 研究の目的とフロー	3
3. キッチンと主婦の役割についての歴史的調査	4
4. 現状キッチンの訪問調査	8
5. 主婦のアンケート調査	10
6. 先行研究調査等に基づく考察	18
7. 「家族をつなぐキッチン」開発プロジェクト	19
8. まとめ	27
9. 添付資料	29

## 1. はじめに

日本の将来推移人口は、2060年には、現在の4分の3程度に減少し、人口に占める生産年齢人口の割合も2分の1程度に低下する急速な少子高齢社会を迎えると言われています。将来にわたり安心して暮らせる社会を実現するためには「持続可能な全員参加型社会」を構築していく必要があり、女性の能力を活用し、活躍していくことが必須課題となっています。そのためには、仕事と家庭の両立支援や育児環境の整備だけではなく、家庭の中でも、家事全般を家族の誰もがこなせるよう考えていくことが必要と考えます。

現在まで、主婦の目線で捉えられがちであったキッチンですが、今後は主婦が社会で活躍していくことが必須と考えられるのが日本の現状であることから、主婦だけではなく、家族全員でキッチンを使うことを考える必要があるのではないのでしょうか。市場で現在商品化されているキッチンは、主婦が動きやすく、収納もたっぷりあり、使い勝手が良い、また子育てのことまでも考えて商品化されています。しかし、やはり主婦だけが使うことを前提としているキッチンが多いのではないのでしょうか。

そこで、私たちは、もう一步踏み込んで、家族全員で使うキッチンについて研究しました。家の真ん中にあり、家族全員で協力して使える、家族全員が楽しみながら時間や空間を共有できる、コミュニケーションや団欒を生み出す、そのような家の真ん中にあるキッチン空間を研究開発しました。

本研究が、今後の商品開発やインテリアコーディネーターの提案の参考になるよう、報告書としてまとめます。

平成27年3月

インテリアコーディネーター協会関西

新治照美・遠島和恵・土谷尚子・阪口洋子・上村裕美子・  
加藤由佳里・宮井雅美・橋本扶美・川上容子・大西哉子

※別添資料4：インテリアコーディネーター協会関西紹介

### ※参考資料

厚生労働省「平成23年版 働く女性の実情」平成24年7月6日

労働政策研究報告書「No.159 子育てと仕事の狭間にいる女性たち - JILPT 子育て世帯全国調査2011の再分析 -」2013年6月10日

※この調査研究は、公益社団法人インテリア産業協会の助成金を受けて行いました。

## 2. 研究の目的とフロー

この調査研究は、時代の流れによるキッチンや、現状のキッチン、またそれを使う主婦のアンケート調査により、これまでのキッチンのスタイルと女性像また家族像を整理し、家族全員が使うことを目的とした「家族をつなぐキッチン」を研究開発します。家族全員が使いやすいユニバーサルデザインのキッチンです。家族それぞれが様々な時間帯に使用しても、道具の所在がすぐわかり、散らからず掃除もしやすく、また食事時間がバラバラになりがちな家族のコミュニケーションを深めることができる。そのような「家族をつなぐキッチン」を具体的な形として開発します。

### ニーズの調査



### 開発プロジェクト



### まとめ

キッチンと主婦の役割についての歴史的調査

現状キッチンメーカーの訪問調査

主婦のアンケート調査

先行研究調査等に基づく考察

ニーズからキーワードを抽出

設定条件の整理

キッチン収納についてのリストアップ

キッチンプランのスタディ

「家族をつなぐキッチン」開発

### 3. キッチンと主婦の役割についての歴史的調査

#### キッチンと向き合う

食べるという行為は、人間が生きていく上で必要不可欠であり、いつの時代も人と人を繋ぎ、共に調理し食すことで生活を豊かなものにしてきました。調理内容、調理の場所、設備、道具などは、時代と共に変化し、またキッチンを使う人や建築空間の構成によって大きく変わってきました。

「家族をつなぐキッチン」を開発するにあたり、キッチンスペースの変化や女性の仕事と家事の関わり方の変化、生活の仕方や主婦像など時代の流れにより変わっていくキッチンを把握する事により、次世代のキッチンの提案の基礎にするために年代を追って調べました。

#### キッチンの移り変わり

時代とともに変わりゆくキッチン。明治以降近代化は大きく進み、明治末から住生活における封建的な面での改良が提案されはじめ、大正期には生活様式も家族本位の文化生活を目指した大正モダニズムを反映したものへと移り変わっていきます。そして戦後の民主主義の考えのもとには、台所は家族の為の開かれた空間となっていました。

昭和30年代に入ると高度経済成長は進み、本格的な電化ブームが訪れ電気冷蔵庫・洗濯機・掃除機が全国に普及し始めました。40年代に入ると公団や公社の賃貸住宅には、都市の新しい合理的な生活様式を評価する30~40代のホワイトカラー層が多く住むようになりました。時代は工業化や量産化が進み、キッチンユニットや設備コアが台所を充実したものへと変えていきます。

昭和48年の第一次オイルショックからは省資源化に関心がもたれ、住宅については量から質へと変化していきます。床面積の確保が質の向上の象徴とされました。昭和50年ごろにはシステムキッチンが輸入され始めましたが、住宅事情としてはまだまだ改善されたとはいえない状況でした。しかし次第に規模・設備・デザイン面



などの質の高い住宅が設計されるようになり、多機能な台所設備を持つものも作られるようになっていきました。キッチン（K）食事室（D）居間（L）それぞれの構成も多様化していき、K+DやK+DLなど部屋と部屋のつながりのバリエーションも増えていきました。

キッチンの形式についても工業化されたステンレス流し台の導入によりI型が主流ではありますが、L型、U型、並列型なども見られるようになっていきます。

昭和 54 年の第二次オイルショック時には、消費の見直しが叫ばれ多種少量生産時代となり個人のライフスタイルが問われはじめました。そして、食生活の外部化や台所設備の機械化、自動化、高性能化などにより、キッチンとしての用途が薄れ、主婦のキッチンでの作業が軽減していくようになりました。



台所にもインテリア性が求められるようになるのもこのころからです。独立 K にカウンター型式や対面式などのみも進んでいきました。初期の食寝分離がなされていない茶の間型の独立 K とは異なり、他に居間や食事室をもつもので作業室としての機能を重視した空間として計画されているものでした。キッチン居間や食事室と一体化し、台所作業を家族全体で行い団欒行為の一部とするワンルームの LDK と 2 極化しました。経済の高度成長が新しいライフスタイルや家庭の電化、設備の工業化・ユニット化を押し進め、現在のキッチンの原形を作り上げていきました。

### 女性の働き方の変化

キッチンの仕事としては、昭和期・戦中戦後には使用人から主婦や家族の手に移っていく歴史があります。

神戸・北野外国人倶楽部に見ることのできるキッチンは、フランス・ブルボン王朝の建物で使用人が使うものでキッチン横には小さな階段があり、女中部屋へと続いていました。



明治維新以来、社会は西欧文化を手本に合理的・近代的な新しい方向を目指すようになっていきます。このような社会情勢のもと都市では封建体制を支えていた中下級武士層が官吏となり、俸給生活者という中級階級が新しく誕生しました。



それらの夫人が「奥様」と呼ばれ、「奥様」という呼称は武士の伝統やその家内制度を受け継いだとされています。夫人たちには良妻賢母である事が求められ、家政の責任者という立場が与えられました。このような背景のもと「主人は外で働き、奥様が家内を守る」という役割分担が固定化されていきました。

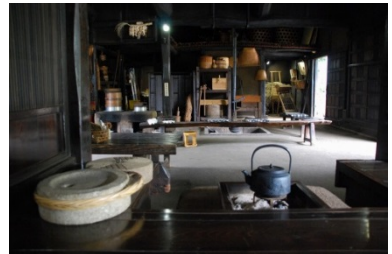




大正期に入ると衛生思想や能率、経済などの考え方が台所道具や家事、家政に取り入れられていくようになります。そして女子教育や夫人が科学的知識を持つことの重要性にも目が向けられていくようになっていきました。電気や瓦斯、水道の普及は清潔で明るい台所を作り、それは一般庶民にも生活改善や台所改善の考えが広がっていくことになりました。



職業婦人や女中の自主権の主張などもみられる一方でまだまだ女子労働の位置づけは低く、婦人の職場は広がりつつも社会的にも教育的にも男女差別は強くありました。広いだけの台所よりも狭くても機能的な台所がもとめられるようになり、やがて戦時中には台所空間の改善などは二の次となってしまいます。一方町家や農家などは明治・大正・昭和期通しても近代化の影響もあまり受けず、大きな変化はありませんでした。都市部とそれ以外での住空間の変化の違いが大きいのも日本独自のものではないでしょうか。



## 家事労働の変化

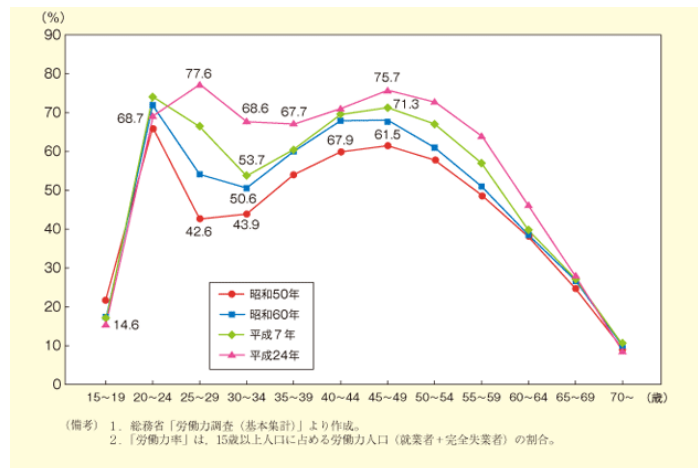
戦後、民主主義・男女同権という社会革命、そして昭和30年代にもなると経済はますます高度成長化し、多種多様な電化製品が普及していきます。冷蔵庫・洗濯機・掃除機の普及が大きく影響し、台所が裏方ではなく、家庭では家の中心の良い場所に設けられるようになっていきました。このことは家庭における主婦が中心的存在になっていったことの裏付けともされます。家電製品は家事労働時間の短縮と共に美しいキッチンを作る事にも貢献しました。家事時間の短縮は共働き家庭の増加に大きく影響もしました。しかし家事労働時間は短縮されたものの、家事は妻が大多数を担っており家事分担はほとんど行われないう現状もありました。



近年家電は様変わりし多種多様な家電製品は時間の短縮だけでなく家事を楽しみながらできるものも多くある時代になりましたが、妻が家事や育児の多くを担っている状況はなかなか変わりませんでした。各種の両立支援制度も確立されながらも、「女性のためのもの」といった固定観念がある限り、女性にかかる負担の軽減には限界があります。女性の継続就業を進めるためには、男女ともが仕事と家庭の両立、ワーク・ライフ・バランスを自らの事としてとらえ、社会全体で働き方を見直していく事は不可欠です。

## 女性の年齢階級別労働力率の推移

女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口（就業者+完全失業者）の割合）は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着く時期に再び上昇する、いわゆるM字カーブを描くことが知られています。近年になるにつれ、M字の谷の部分が浅くなってきているのが特徴として見られます。



地域による違い、配偶者の有無によってもM字の曲線は違っていき、そこには様々な要因が背景にあります。女性の社会進出に伴う少子高齢社会では子育て期の核家族に代わり、若年・中年・高齢期を通してシングル層が一定して増加するとみられています。そして、日本の将来推計人口はこれからのおよそ45年後2060年には現在の4分の3程度に減少し、人口に占める生産年齢人口の割合も2分の1程度に低下する、急速な少子高齢化社会を迎える事が見込まれています。将来にわたり安心して暮らせる活力ある社会を実現するには、持続可能な全員参加型社会を構築していく事が必要で、女性の潜在能力を引き出し、活躍を推進することは企業や社会の活力に繋がる鍵でもあります。

## 今後

さらに家族のかたちが多様化し、女性の価値観も多様に分化していくなかで家族団らんのかたちも「家族で共に食事することを重視する」ことだけに収まらず家族を結ぶきずなとしての食の重要性、そしてその場となるキッチンの在り方については重要な課題であると考えます。

## 参考文献

- ・北浦かほる / 辻野増枝 編著 「台所空間学事典」
- ・厚生労働省 「平成23年度版 働く女性の実情」
- ・山口昌伴著 「台所空間学」



## 4. 現状キッチンの訪問調査

### 4-1. キッチンメーカー（LIXIL、Panasonic、TOYO キッチン、スタディオ）

建材の総合メーカー2社、ハイエンドをターゲットにするデザイン性を追求するメーカー、オーダーキッチン専門の工房的メーカーなどそれぞれに特色のある、4社のキッチンメーカーにアンケートを実施し、現状キッチンの傾向、対策を調査しました。以下にヒヤリング内容をまとめます。

	LIXIL	Panasonic	TOYO キッチン	スタディオ
ファミリータイプで最適なキッチンの大きさ	主流は2550mm、関連機器、収納との距離も重要な要素と考える	2550mmの標準サイズ	食事を中心に考えるか、考えないかによって、家族構成により変わる	オーダーキッチンの為、お客様の諸条件次第
お客様に人気のあるキッチンのタイプ	新築はI型、リフォームはペニンシュラ型。それらの対面型が多い	若い世代は対面型のオープンキッチン、リフォーム層は使い慣れたI型壁付プラン、手元を隠した対面キッチン	W2550mm、D1050mmのオープンキッチン。大きさにちよūdよく、食事を取るのに適した奥行き	アイランド
要望の高い収納	壁付I型タイプは吊戸棚。収納ユニットの人気はカップボード。パントリーが求められることも	キッチンとセットでカップボード。家電収納やごみ箱収納も人気	収納はあまりでません。別途造作収納が入っていることが多い	カップボード
開発上（ファミリータイプ）で重点を置いている部分	子育て世代は男性、夫がサポート出来、子どもも一緒にできる対面キッチン。シニア世代は適度な距離感を演出	作業性、お手入れ、収納、デザイン	作る、食べる以外、キッチンじゃないところの提案	機能性、使いやすさ
キッチンのコンセプトを考えるに当たり、どのような調査、研究をしているか	観察用キッチンがあり、定点カメラを通して動きを観察し、調理時の体への負担低減や動線効率のさらなる改善工夫に取り組んでいる	市場調査（業界全体・トレンド分析・自社他社分析）ユーザーのニーズ調査（定量及び定性調査まで）満足度調査など様々な調査研究	キッチンの市場調査はしない。インテリアやファッションのトレンドについて調査	メーカー情報、インテリアやキッチンの情報誌、展示会
キッチンの中で働く女性目線で考えられた商品	常に実生活、働く女性目線で商品作りを行っている	現在共働き世帯は半数を超えているので働く女性目線での商品企画が基本	特にありません	オーダーなので、主に使われる女性目線を大切にしている

4社に共通する点としては、大きさや形は大差がなく、ワイド 2550mm、対面型、I型、オープン型の回答でした。

一般的に普及しているキッチンメーカーは、調査・研究が徹底しており、細かい収納や設備が充実しているように感じました。それに対し、ターゲットを絞ったデザイン性重視、オリジナル性重視のキッチンメーカーは、潔くこだわり抜いた考え方があり、その徹底したブランド意識にコアな人気を博していると感じました。

これらの結果はとても興味深く、今後の参考に役立つものとなりました。

#### 4-2. ハウスメーカー（積水ハウス）

積水ハウスへの調査は、キッチン単体ではなく、ダイニングキッチン空間というくくりに対しての研究や開発がなされているという、ハウスメーカーならではの結果を得ることができました。

積水ハウス	
ファミリータイプで最適なキッチンの大きさ	3500～4500×6000～8000 ということでは約 12 帖～21 帖、かなり広めな印象。
お客様に人気のあるキッチンのタイプ	I型・吊戸なし。対面キッチンの吊戸なしパターンは、開放感を求めるエンドユーザーの要望から、ここ 10 年で定着したスタイルと思われる。 I型・L型・セパレート型等のキッチンタイプに関わらず、“ちょい置きスペース”のあるキッチンを推奨。 ※“ちょい置きスペース”：メーカーヒヤリングシートに添付された資料を参照ください
要望の高い収納	パントリー。お客様からの要望がない場合も、当たり前提案している。
開発上（ファミリータイプ）で重点を置いている部分	ダイニング空間の居心地 調理家電用のコンセント確保 キッチン（台）のレイアウト
キッチンのコンセプトを考えるに当たり、どのような調査、研究をしているか	定量アンケート調査 試作評価・ヒアリング・グループインタビュー・生活参加型ワークショップ 調理動線実験（モーションキャプチャー分析）・配膳動線実験等
キッチンの中で働く女性目線で考えられた商品	家事のユニバーサルデザイン視点 キッチンクロークのある DK 電子レンジを組み込んだワークスクエア動線等

※参考資料 別添資料 2：メーカーヒアリングシート

## 5. 主婦のアンケート調査

現在、働く主婦たちが、どのような思いを抱いて働いているのか、キッチンについては、料理をする頻度、使い勝手、収納量、また家族はキッチン作業について誰の仕事と思っているのか、家族のコミュニケーションについての意識調査をしました。

### 「キッチンに関するアンケート」

調査目的:「家族をつなぐキッチン」開発の為の意識調査

調査方法:インターネット調査

調査協力:(株)うる「暮らしのねっこ」

調査期間:2014/12/01~2014/12/15

回収数 :300(対象:20歳以上の既婚女性)

### 5-1 アンケート内容

キッチンに関する以下の32問についてアンケート調査を行った。

1. お仕事形態についてお聞きします。  
会社員 パートタイム フリーランス 自営業 その他( )
2. お仕事についてお聞きします。  
規則的である 不規則的である 仕事はしていない
3. お仕事に使う時間は1週間に何時間ですか?  
週( )時間 ※働いていない人は0時間とお答え下さい。
4. 仕事をされる理由についてお聞きします。(複数回答可)  
現在の生計を支えるため 将来の蓄えのため(教育資金・老後資金など) 家業だから  
子どもの塾や習い事のため 自分で自由に使えるお金が欲しいから 仕事にやりがいがあるから その他
5. お住まいについてお聞きします。  
持家 賃貸
6. お住まいの種類についてお聞きします。  
戸建 マンション アパート その他( )
7. 同居のご家族の構成を教えてください。
8. 同居しているご家族のコミュニケーションは取れていますか?  
とてもよく取れている よく取れている どちらともいえない あまり取れていない 全く取れていない
9. 夕食後などの家族団欒は、主にどこで過ごしていますか?  
キッチン ダイニング リビング その他
10. あなたは、夕食後の時間をどのように過ごされることが多いですか?(複数回答可)  
テレビを見る 読書をする パソコン 勉強 スマホ ストレッチ 仕事 趣味  
家族との談笑 映画鑑賞、音楽鑑賞 ゲーム 掃除 その他
11. 夫は、夕食後の時間をどのように過ごされることが多いですか?(複数回答可)
12. 子供は、夕食後の時間をどのように過ごされることが多いですか?(複数回答可)
13. キッチン作業について、ご自身はどう思っていますか?  
自分の仕事である どちらかといえば自分の仕事である どちらともいえない  
どちらかといえば自分だけの仕事ではない 自分だけの仕事ではない
14. キッチン作業について、夫はどのように思っていますか?  
妻の仕事である どちらかといえば妻の仕事である どちらともいえない  
どちらかといえば妻だけの仕事ではない 妻だけの仕事ではない
15. キッチン作業について、子どもたちはどのように思っていますか?  
お母さんの仕事である どちらかといえばお母さんの仕事である どちらともいえない  
どちらかといえばお母さんだけの仕事ではない お母さんだけの仕事ではない
16. 夫は、料理をしますか?  
よく料理をする まあまあ料理をする どちらともいえない あまり料理をしない 料理をしない
17. 子どもは、料理をしますか?  
よく料理をする まあまあ料理をする どちらともいえない あまり料理をしない 料理をしない

18. ご家族は、キッチン作業を手伝ってくれますか？  
よく手伝う 手伝う どちらともいえない あまり手伝わない 手伝わない
19. ご家族は、料理に関する事で、何を手伝ってくれますか？(複数回答可)  
買い物 下ごしらえ(米とぎ、野菜の皮むき等) 調理 配膳 後片付け その他
20. ご家族にキッチン作業を手伝って欲しいですか？  
いつも手伝って欲しい 手伝って欲しい どちらともいえない あまり手伝って欲しくない 手伝ってほしくない
21. 料理は週に何日程度作りますか？  
毎日作る ほぼ毎日作る 週 3~4日 週 1~2回 週1回未満
22. 食事作りで、とくに重視しているのは何ですか？  
朝ごはん 昼ごはん 夕ごはん おやつ 弁当 その他
23. 夕食の料理にかける時間は平均してどのくらいですか？  
2時間以上 2時間以内~1時間以上 1時間以内~30分以上 30分以内
24. 調理済食品(惣菜、レトルトなど)は利用されますか？  
よく利用する 利用する どちらともいえない あまり利用しない 利用しない
25. 以下の内、あなたが料理に利用するものをすべて選んで下さい。(複数回答可)  
冷凍食品 チルド食品 レトルト食品 惣菜 缶詰 その他
26. キッチンの収納量についてお聞きます。  
充分足りている 足りている どちらともいえない あまり足りていない 足りていない
27. 前問に関連して、キッチンの収納について思っていることがあればご記入ください。(自由記入 200字以内)
28. 下記の内、夫が置き場所を把握しているものをすべて選んで下さい。  
食品類のありかを把握している 調理道具のありかを把握している 食器類のありかを把握している その他
29. 下記の内、子どもが置き場所を把握しているものをすべて選んで下さい。  
食品類のありかを把握している 調理道具のありかを把握している 食器類のありかを把握している その他
30. 現在ご使用のキッチンについて、好きなところをお聞かせください。(自由記入 200字以内)
31. 現在ご使用のキッチンについて、嫌いなところをお聞かせください。(自由記入 200字以内)
32. 仕事・家事・子育てをしていく上で、工夫をしていることはありますか？(自由記入 200字以内)

## 5-2 回答者属性

アンケート回答者の属性は下記の通りである。

### ◆年代（10代きざみ）

年齢(歳)	人数(人)
20-29	8
30-39	88
40-49	118
50-59	68
60-	18
合計	300

### ◆居住地（8エリア区分）

エリア	人数(人)
北海道	7
東北	17
関東	102
中部	55
近畿	64
中国	27
四国	9
九州	19
合計	300

### ◆居住方法（持家／賃貸）

エリア	人数(人)
持家	203
賃貸	97
合計	300

### ◆住居タイプ（戸建て／マンション）

エリア	人数(人)
戸建て	164
マンション	96
アパート	33
その他	7
合計	300

### 5-3 アンケート結果

アンケート結果は、次の通りである。

- ① 設問1～29の結果 円グラフ（択一回答のみ、設問3を除く）  
（別添資料1-2：アンケート回収結果（円グラフ））
- ② 自由回答まとめ（設問3、27、30～32）  
（別添資料1-1：アンケート（自由回答）まとめ）

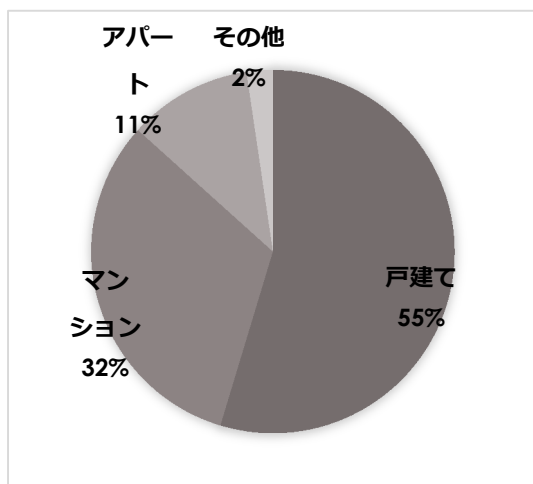
### 5-4 アンケート分析および考察

#### 5-4-1. クロス集計・分析

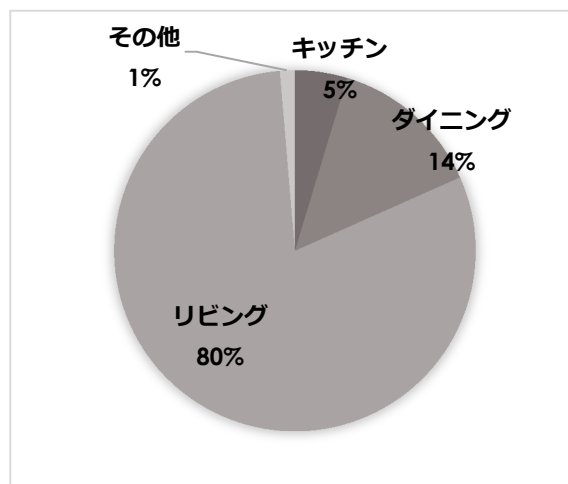
アンケート結果をもとにクロス集計を行った結果、下記3点について相関関係が見られました。

#### ① 住居タイプ×団らん場所（設問6×9）

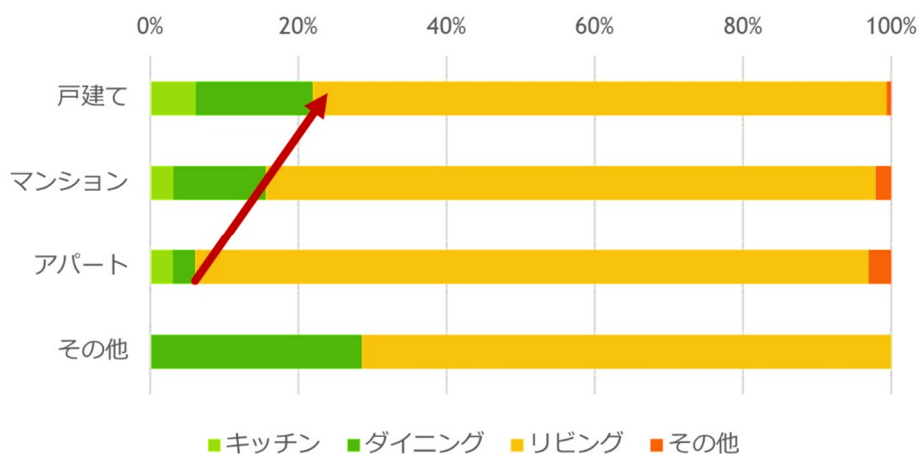
Q6 現在のお住まいの種類について、当てはまるものを選んでください。



Q9 夕食後などの家族だんらんは、主にどこで過ごしていますか？



住居タイプ × 団らん場所



● **ダイニングキッチンが家族団らんをつなぐ**

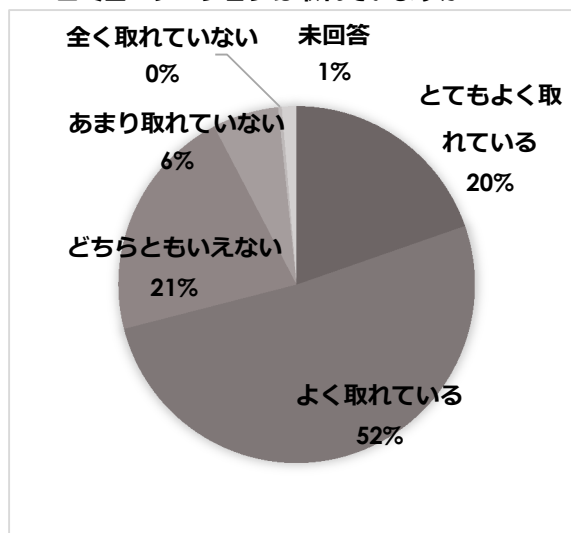
最も特徴的な傾向（相関）が見られたのは、居住形態との関係でした。具体的には、一般的に居住空間が広い住居形態（戸建て>マンション>アパートの順）にお住まいの方ほど、団らん場所にキッチン・ダイニングを選びやすいということが分かりました。

裏を返せば、本来食事の場で団らんをしたいが、十分なスペースが取れないために、アパート住まいの方などはリビングスペースで団らんをしている可能性があります。「夕飯を一緒に食べる家族は幸福度が高い（※）」という他社の調査結果もあり、生活者への提案としてこの統計を踏まえた「家族をつなぐキッチン」の提案は、生活者インサイトに合うものになると考えられます。

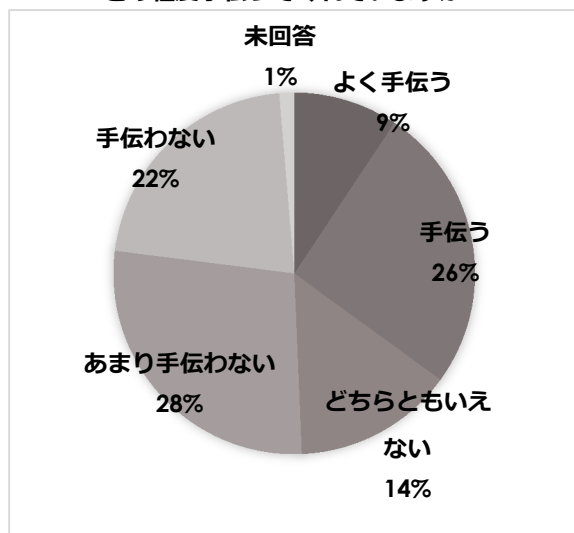
※参考：M1・F1 総研 調査データより [http://m1f1.jp/wp-content/uploads/2013/03/labo\\_091013.pdf](http://m1f1.jp/wp-content/uploads/2013/03/labo_091013.pdf)

② **コミュニケーション実感×キッチン仕事への家族参加（設問 8 × 1 8）**

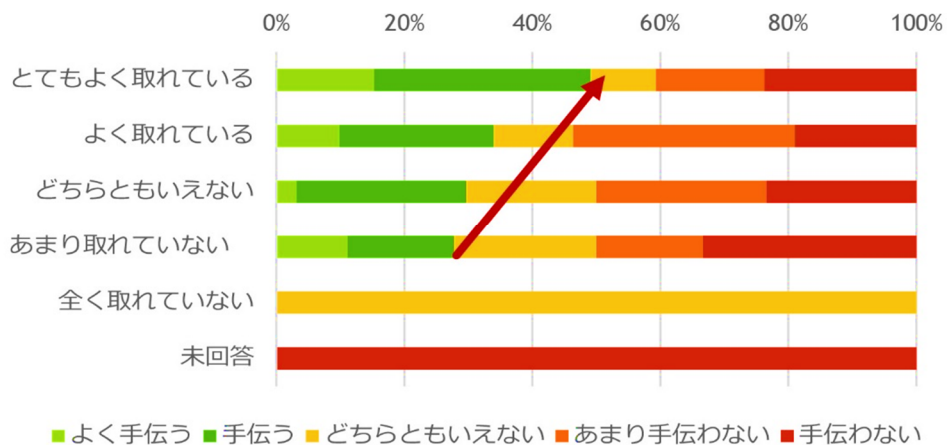
Q8.同居しているご家族の  
コミュニケーションは取れていますか？



Q18.ご家族はキッチン作業を  
どの程度手伝ってくれていますか？



コミュニケーション実感 × キッチン仕事への家族参加

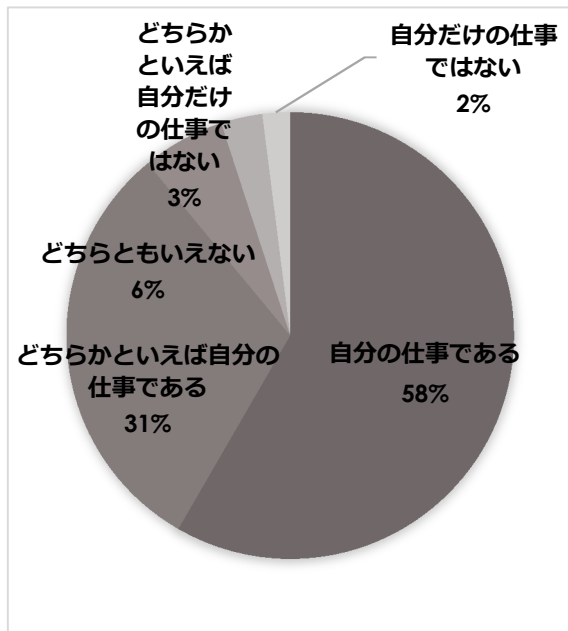




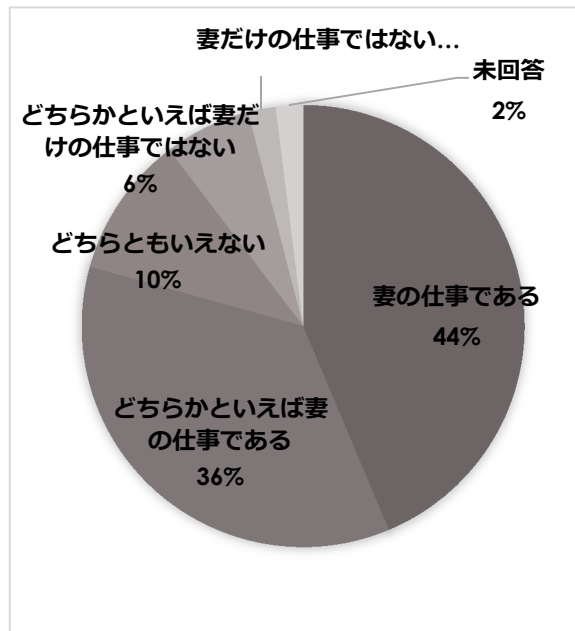
● キッチン作業が、家族のコミュニケーション力を高める

設問8「同居しているご家族のコミュニケーションは取れていますか?」と設問18「あなたからご覧になって、ご家族はキッチン作業をどの程度手伝ってくれていますか?」という2問は前頁のグラフの通り正の相関関係が見て取れます。つまり、キッチン仕事の家族参加が得られている回答者ほど、家族間のコミュニケーションがよく取れていると感じていることが言えそうです。

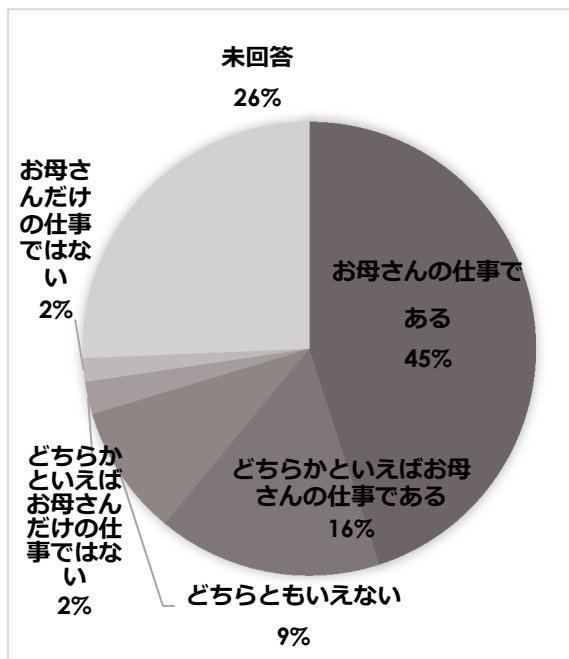
Q13.キッチン作業全般について、あなたのお考えに近い選択肢を選んでください。



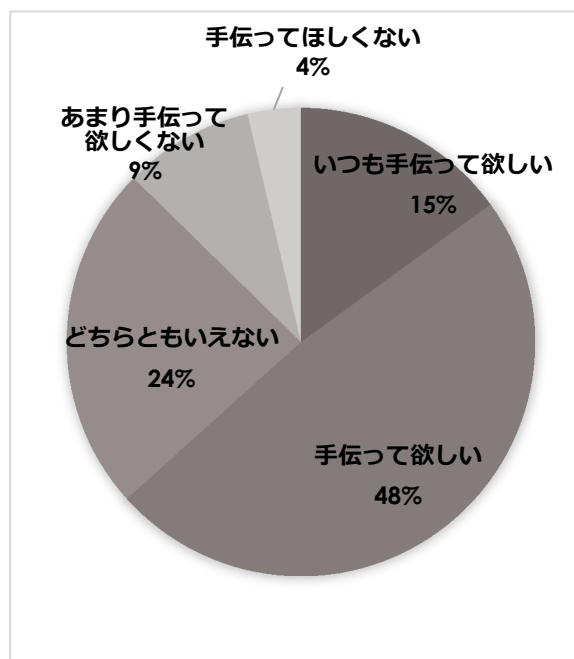
Q14.キッチン作業全般について、あなたの夫はどのように考えている様子ですか?



Q15.キッチン作業全般について、あなたの子供はどのように考えている様子ですか?



Q20 ご家族にキッチン作業を手伝ってほしいですか?



- **家族の期待以上に高いキッチン作業への責任感**

全て同じ妻本人に答えてもらっているにもかかわらず、夫・子どもが求めている以上に「キッチン仕事は自分の仕事である」という自覚があることがわかります。

ただし、設問20の結果を見ると実に6割以上の妻は、キッチン仕事を手伝って欲しいと思っているという結果が出ています。

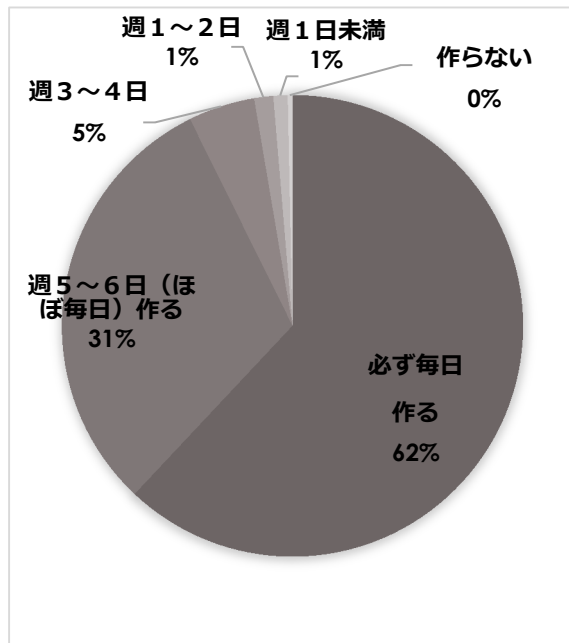
「キッチン自分の城」という意識があるものの、家族と一緒に料理を楽しみたいという本音が見えます。夫・子どもの立場からすると妻（母）の立場としてはありがたいのかもしれませんが。

「なぜ家族の期待以上に、家事を自分の仕事と捉えているのか?」、「家族からはどんな協力を得たいのか?」という点については興味深く、さらにインタビューなどを実施することは今後の課題にしたいと思います。

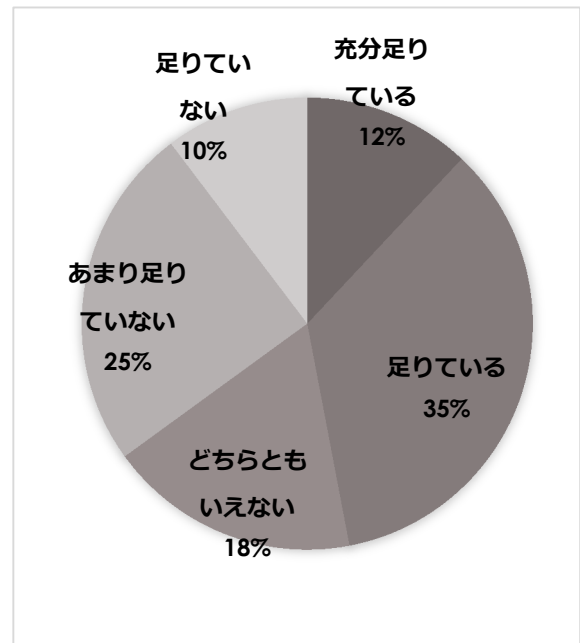
また、Q13の結果について専業主婦とそれ以外の人を比べた場合、専業主婦は「自分の仕事である、どちらかといえば自分の仕事である」と考えている人が9割を超えており、キッチン仕事に対する義務感が若干強そうであることがわかりましたが、大きな差が出るほどではありませんでした。

### ③料理頻度×キッチン収納が足りているか?

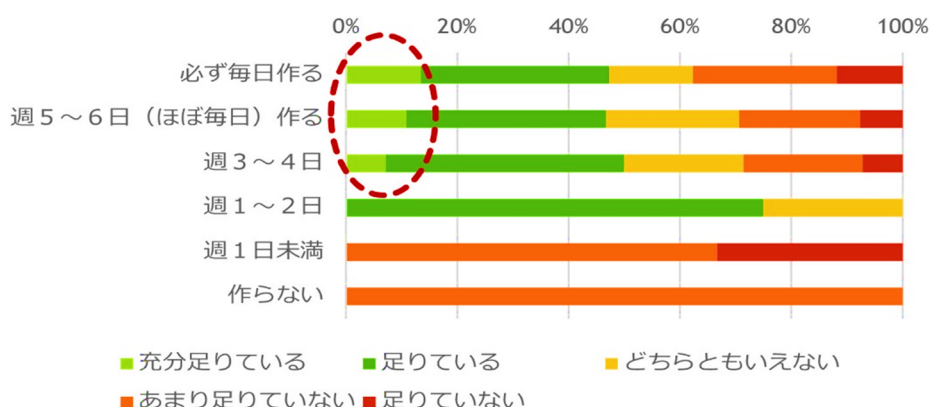
Q21.あなたは平均して  
週何日ぐらい料理を作りますか?



Q26.あなたのご自宅のキッチンについて、  
収納量は足りていますか?



### 料理頻度 × キッチン収納が足りているか？



#### ● キッチン収納の充実が自宅での料理頻度を高める結果に

料理の頻度とキッチン収納についての相関は、有意差とは言えないまでも「必ず毎日作る」と回答している人ほど、キッチン収納に対する満足度が高いという結果が出ました。

このことから、キッチン収納が充実していることが、調理器具や材料などを管理しやすくなり、料理を習慣的に作りやすいということに結びついているのではないかと考えられます。

（料理頻度が1日未満と答えている人全員が収納に関して足りていない・あまり足りていないと回答している結果からも関係性がありそうです）

#### 5-4-2. 自由回答に関するまとめ及び分析

##### ① キッチンの好きなところ・嫌いなところについて

キッチンの好きなところとして回答が多かったのは、

- ◆ 動線が短く、動きやすい
- ◆ カウンターが使いやすい
- ◆ 収納が充実していて使いやすい

また、嫌いな点については、

- ◆ 狭い
- ◆ 寒い・暗い
- ◆ 収納が足りない

という意見が圧倒的に多かったです。

コンパクトで動きやすいキッチンが好まれる一方、出来た料理を置くスペースや必要な道具やストックの収納スペースを確保することが望まれています。これらの意見を考慮しながら丁度良いサイズや収納を使う立場に立って模索していくことが大切であると分かりました。

## ②キッチン収納について

- ◆ 高いところが使えない
- ◆ パントリーが欲しい
- ◆ 収納スペースが足りない

という意見が多く見られました。

パントリーに対する要求度は高く、キッチンプランの提案には必須であると考えられます。ただ、スペースがあるだけでなく使いやすいことが求められています。

## ③仕事・家事・子育てをしていく上での工夫について

自由回答の結果をまとめると、以下の3種のアイデアが多いことが分かりました。

### (ア)頑張りすぎない

- ◆ 頑張りすぎない。たまに手抜きをする
- ◆ バランス良く完璧を目指さない
- ◆ 自分が倒れたら大変なので、疲れたと思ったら食事や掃除を少し手抜きする
- ◆ 適度な手抜きで気持ちを楽しんでいる
- ◆ 完璧をもとめてイライラするよりは、レトルトを使ったり、掃除を手抜きしてもニコニコしていた方が良い

### (イ)効率化・合理化

- ◆ 朝など集中して同時に家事をすます。掃除など気がついた時にこまめにする
- ◆ 手作りにこだわっていたら時間が足りないので、カット野菜や惣菜、レトルト、冷凍食品を利用しながらなんとか短時間でやっている
- ◆ 家事、仕事、楽しく効率を上げるために制限時間を決めてタイマーをかけより早く正確に綺麗に仕上がるように独り競争している
- ◆ いかに時短できるか段取り・並列作業、その都度やれることをやってあとにためないなどしている

### (ウ)断捨離・整理整頓

- ◆ なるべく在庫は少なく、管理しやすいようにしています
- ◆ 要らないものはすぐ捨てる事
- ◆ ものの配置を工夫して小さい子がいたらいたずらしないようにしている。怒らなくて済むから楽
- ◆ 無駄がないようにすること。生活動線にあわせて物を収納したり、不要なものは適宜処分すること
- ◆ 物を持ちすぎず、使えるものを厳選し、管理を楽に

「頑張りすぎない」という回答は、主婦業＝ストレスフルであることを受け入れた境地と言えます。そもそも家族のためにしている家事なのに家事が原因で家族関係を悪くしたくない。そんな妻（母）の気持ちが表れていることが結果から読み取れました。

世間一般、共働きが当たり前になりつつあるので、家事を支えるインテリア・キッチンの存在は、世の妻（母）達にとって重要性が増しています。「手抜きがしやすい（おのずと効率が上がりやすい）」「合理的な家事ができる」「整理整頓がしやすい」などの付加価値が、生活者からますます求められていることが分かり、これらの結果をキッチン計画に生かしていきたいと思えます。

## 6. 先行研究調査等に基づく考察

これまで各所で行われてきた先行研究やセミナー資料を参考に考察をしました。

平成25年度キッチン関連調査「団塊世代の男性が使うキッチン」(JA F I C A 2014.5)によると、予想以上に男性が料理をしている実態があるとのこと、そのことから、男性の視点からの「男のこだわり」や「遊び心」を取り入れたユニークな形状のキッチンに期待したいとあります。

生活ラボニュース Vol.3「30代、40代、50代に聞く、『お父さんと、夕ごはん、家族関係』調査」(株式会社メディア・シェイカーズ M1・F1 総研 2009.10)によると、夕ごはんを家族で一緒に食べている人ほど、家庭なコミュニケーションが円滑、幸福度もアップするとあります。

「クックパッドユーザーに聞いた『理想のキッチン』に関する調査」(株式会社リクルート住まいカンパニー 2014.11)によると、料理をするうえで8割以上が効率よく短時間で料理することを重視し、調理中は“ながら調理”派が約8割と多数存在。さらには、約6割の人が2人以上でキッチンに立って作業をすることがあるとあります。

都市生活レポート「キッチンリフォームの現状とニーズ～50代・60代女性がリフォームで実現したいキッチンとは～」(都市生活研究所 2011.9)によると、実現したいキッチンのポイントは、長年の不満を解消できる(古さ、清掃性、収納)や機器配置や収納場所などがあげられています。

ハーフェレジャパン「クレバーストレージセミナー」によると、トール収納による食材ストックの一元化、キッチンバック収納の「開口を大きくとる」、「作業動線を邪魔しない」、「収納物を隠せる」などがキッチン収納のトレンドであるとのこと。

以上のことから、家族みんなが使いやすいこと、リビングやダイニングが見渡しやすいこと、片付けやすい収納にすること、また、収納の量と効率性について重視することなどがニーズとしてあるだろうと考えました。

## 7. 「家族をつなぐキッチン」開発プロジェクト

「家族をつなぐキッチン」を開発するにあたり、家族の誰もがキッチン作業に参加しやすいキッチンとして、アイランドタイプのキッチンがいいのではないかと考えました。

開発を進めていく上で、四角い形は、視覚的に心理的に、何かしらの区切りやエリアを作ってしまうがちではないだろうかという意見が出ました。もしこれが、有機的な豆のような形なら、キッチン側ダイニング側どこからでも自然に作業に加わることができ、キッチン作業をする時の孤独感（皿洗い時に、向こうのリビングから楽しげな笑い声が聞こえてくるのが寂しいという声もありました）もなく、家族の誰もが話題を共有できコミュニケーションも深まるのではないか。今までのリビングとダイニングとキッチンを単にまとめた

「L+D+K」ではなく、リビング、ダイニング、キッチンの境界線を取り払った「L=D=K」で、豊かな家族のコミュニケーションを図ることができるのではないか。このようなアイデアをまとめながら「家族をつなぐキッチン」の開発を進めました。

### 7-1 コンセプト

今回開発するのは、豆の形をイメージした「ビーンズキッチン」です。このキッチンは、有機的な形のワークトップ、そしてクレバーストレージ、可動性と高さ調節機能を持ち合わせたダイニングテーブルがあります。「クレバーストレージ」は、ドイツの収納の考え方で、この考え方に基づき一元管理、一覧管理を取り入れた収納にしています。ものの在処を家族誰もが直感的に把握することができ、取り出し、収納、在庫管理のストレスを軽減します。「可動するダイニングテーブル」は、可動性と高さ調節機能をつけています。高さ調整や移動ができることで、「みんなでなにかをする」「個々でなにかをする」などの様々な生活シーン（平日、休日、パーティーシーンなど）に対応できます。このビーンズキッチンを、リビングダイニングキッチンとしての生活シーンと合わせて提案します

### 7-2 設定

夫：48歳 会社員

妻：43歳 会社員

長女：17歳 高校生

長男：14歳 中学生

家族みんなで食事を作ったり、お菓子を作ったりするのが大好きな家族。週末の夜にはお友達を呼んでホームパーティをたまに開催する。



### 7-3 クレバーストレージ

家具用金具やインテリア用品を製造販売しているドイツに本社のあるハーフェレージャパンが業務提携しているドイツの金物メーカー、ケッセベーマー社では、クレバーストレージ（かしこい収納）は、キッチン内部の品質の証明でもあるとしている。

#### 『クレバーストレージのガイドライン 10 項目』

1. 最適アクセス
2. 透明性＝一目で何が中に入っているかがわかるか
3. スペースの最適な活用
4. 最適なワークフロー
5. 最適な人間工学＝老若男女、背の高さなどに関係なく誰にでも使いやすい
6. 純粋な心地よさ＝軽い力でストレスなく扉などが開けることができるか
7. 上質なデザイン
8. ケアが簡単＝掃除がしやすいか
9. 耐久性
10. 簡単組立て

#### 『ミックスダブル』

冷蔵が必要なもの、常温保存のものをひとつにまとめれば誰でも使いやすくなるという考え方がミックスダブルで、自宅にスーパーマーケットがあるような感覚になれる。

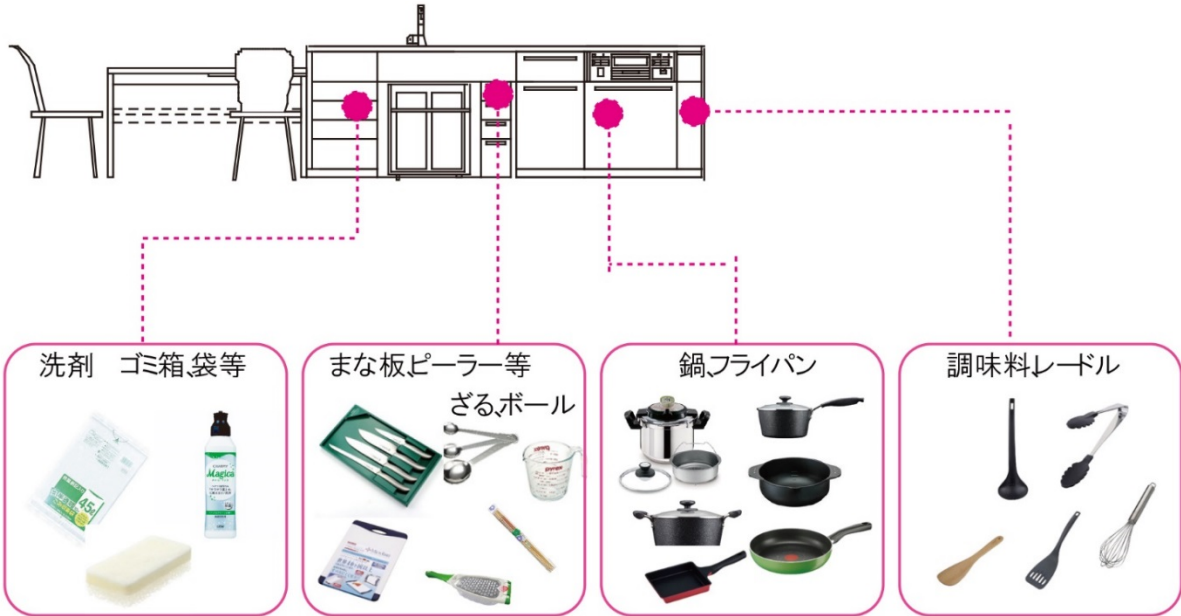
#### 『ゾーンコンセプト』

キッチンの空間をすべてゾーンに分けるということ。調理ゾーン、食品収納、食器収納などすべてをゾーン化することで、無駄な動線を省いた最適なキッチンを構築できる。

## 7-4 収納計画

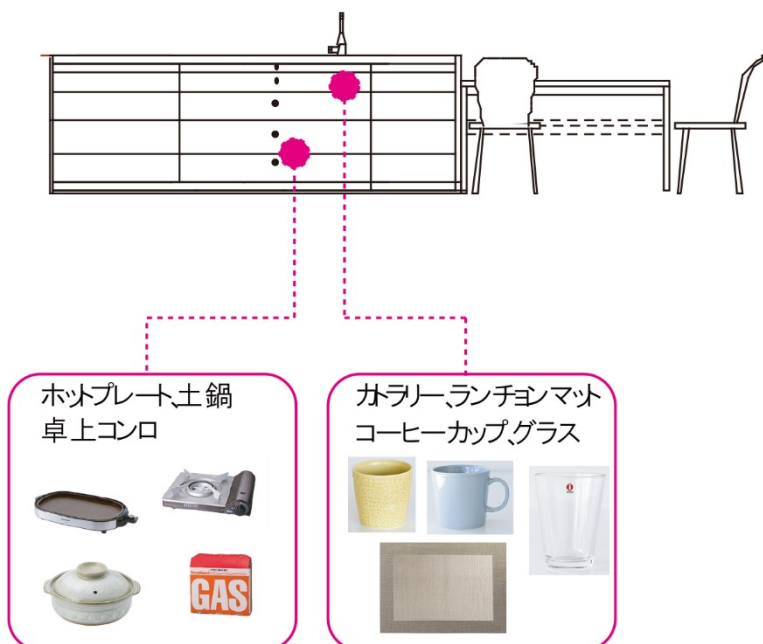
### <キッチンフロアユニット収納>

水を使うときに使用頻度の高いもの（ザル・ボウルなど）、火を使う時の必要な調理道具（鍋・レードルなど）、ゴミが出るまた掃除するものはシンクまわりに、使いたいものが動かずに取り出せる位置に収納する。

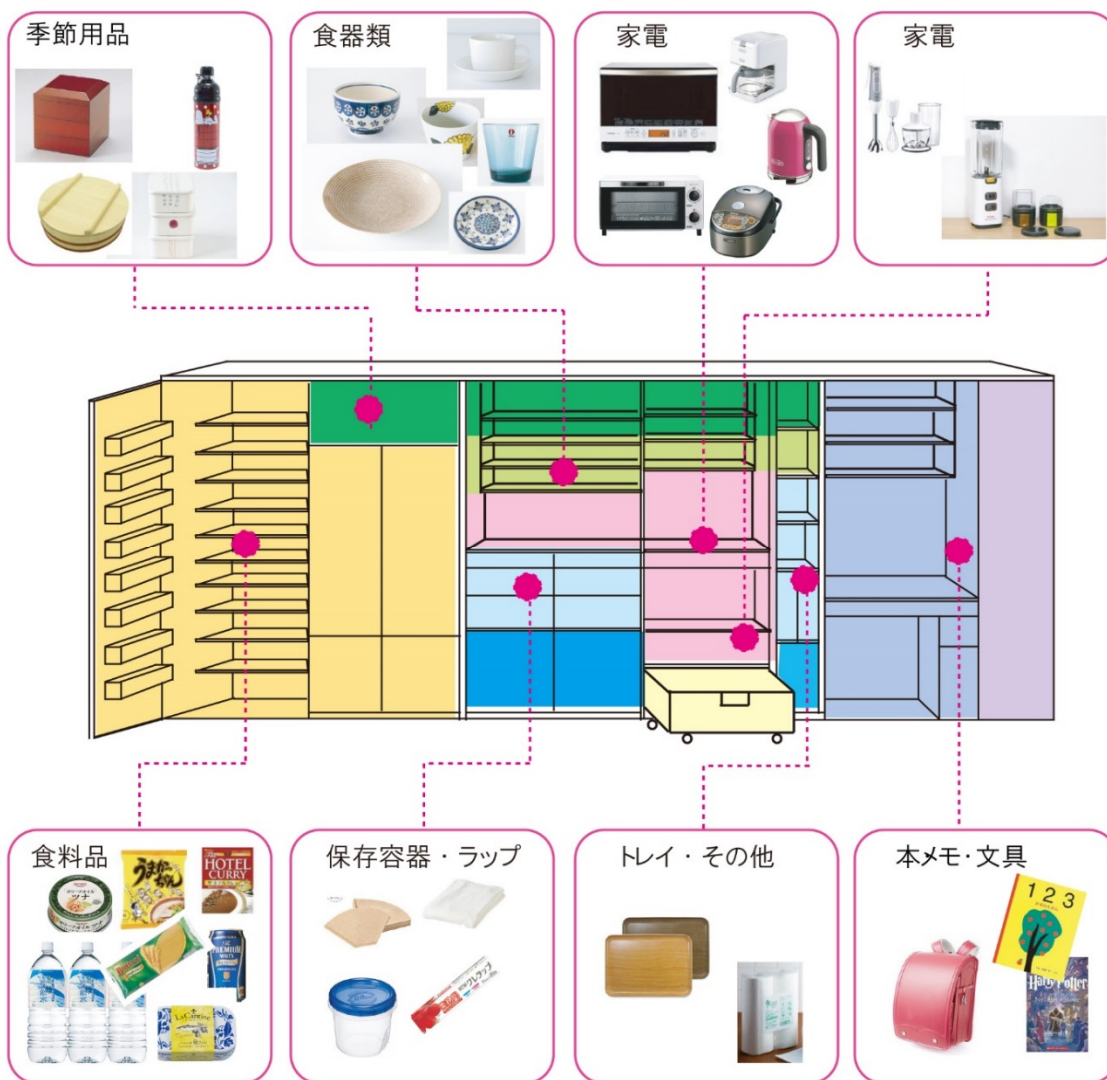


### <キッチンフロアユニット収納 リビング側>

食卓で必要なもの（カトラリー、取り皿、湯のみなど）は上の引出に、土鍋、ホットプレート類は下部に収納する。食卓で必要な物は、ここに集中して管理する。



## <キッチンバックツールユニット収納>



- 食料品は常温冷蔵保存をひとまとめに、パントリーは、奥行の浅い棚と扉ポケットで細かい食品も一覧管理ができる。
- キッチンペーパー、布巾、ラップ、保存容器、トレイなど出番の多いものは、ゴールデンラインで管理する。
- 背の低い家族も高いところのものが取れる踏み台収納。
- 主に盛り付けが必要な食器は立体作業域内に収納する。
- 重箱、ピクニック用品などは上部に収納。
- 盛り付けなどの作業や、常時使う家電は立体作業域内に配置する。
- デスクでは、学校の連絡帳や文房具、メモ帳などの収納。  
その他家族みんなの情報を管理する。

## 7-5 ビーンズキッチン

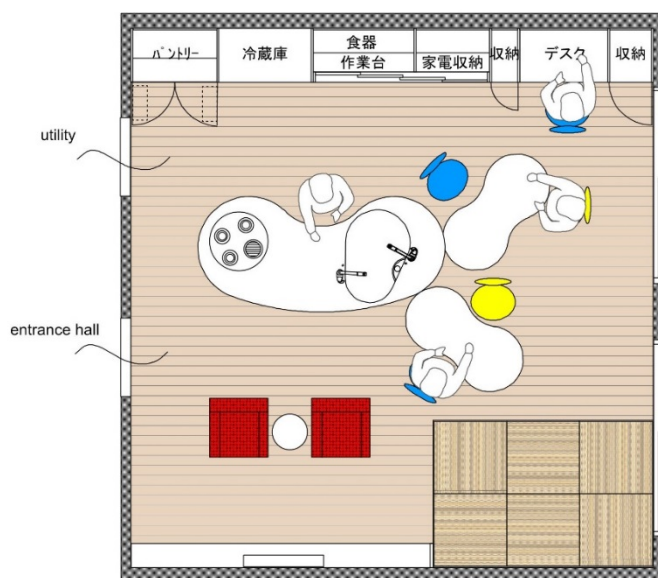
キッチンの内と外というバリアをなくすため、ビーンズ型のワークトップとダイニングテーブルを開発しました。

ビーンズ型なら、シンクもクッカーも3方向から使え、2人以上がキッチン作業しても、誰かが手を止めることもなくなります。家族の誰もが料理やそれぞれのことをしながら、お互いのコミュニケーションを取る事ができます。また、大人数にも対応できる伸縮できる脚のダイニングテーブルにしています。

### (1) WEEK DAY パターン

平日は、テーブルを少し離して、勉強する子どもと、遅い夕ごはんを食べる父親が、気にならない距離を保ちます。

家族は、それぞれのことをしながら夜を過ごします。

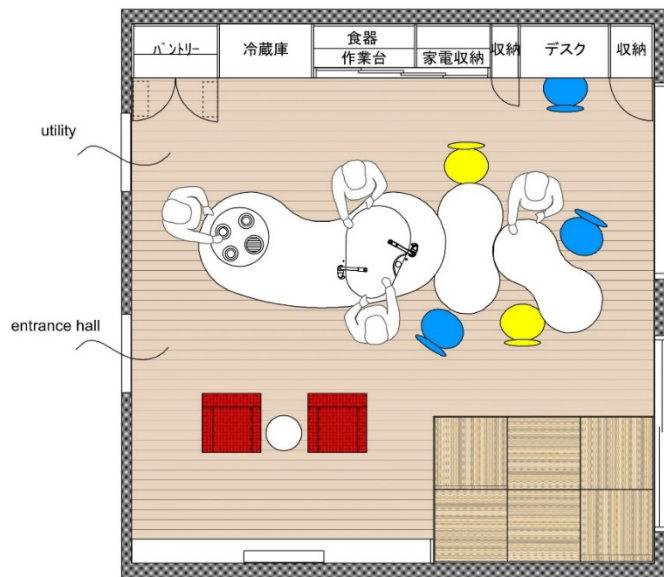


WEEK DAY  
(それぞれのことをしながら夜を過ごす)

## (2) WEEK END パターン

テーブルを寄せて、家族揃っての食事を楽します。時には家族全員でケーキ作りに挑戦します。

食の大切さを学び、また、同じ作業をすることで生まれるきずなを深めます。

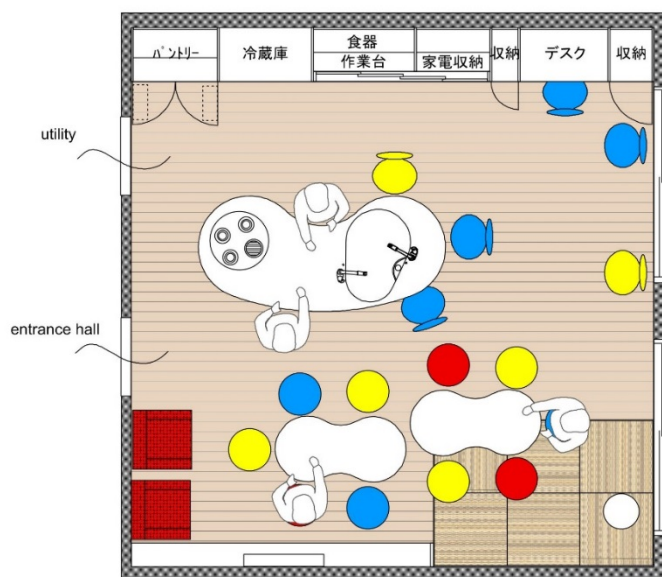


WEEK END  
(家族で料理を楽しむ)

## (3) PARTY パターン

テーブルを低くして、床座スタイルにすることで大人数にも対応できます。赤ちゃんのいる家族が来ても、畳コーナーがあるので安心です。

床座ならではのリラックス感が会話を弾ませます。



PARTY  
(床座にして、大人数でも楽しめる)





イメージパース1.畳コーナーより





イメージパース2.デスクコーナーより

## 8. まとめ

今回、女性の本格的な社会進出に伴い、家庭のキッチンやそれを取り巻くリビングダイニングのあり方について調査研究しました。キッチンに関する歴史やあわせて女性の社会的な立場の変遷について、また現状キッチンのヒヤリング、アンケートなどを行いました。

戦後のライフスタイルの変化に伴いキッチンは大きな進化を遂げました。また、女性の労働力については、ある時代には、子育て支援もない中で駆り出されたり（女工など）、女性の社会参画を促しつつも職場の花的な扱いであったりも、今は過去のものとなり、女性が自らの意思を持って、仕事に誇りとやりがいを求め、母や妻だけではない自分の人生もつかんでいく時代になりつつあります。

主婦のアンケートによると、キッチン作業は誰の仕事かの問いに対して、主婦だけでなくほかの家族も「キッチン仕事は主婦の仕事」であると思っています。これは、キッチンが一人か二人で使うように設計されているからかもしれません。また、主婦は家族のキッチン作業の手伝いを望んでいます。

その他の調査では、料理や食事を共にすることが、家族のコミュニケーションに重要な役割を果たしていること、「家族の幸せ感」につながるなど、キッチンが単に性能の良い作業空間であること以上に「家族のきずな」を深めるための、空間としての大きな役割があることを改めて感じ取るができました。

私達は、今回の調査研究で、その一つとして、カウンターの「内側」と「外側」というバリアを取り払うため、ラウンドタイプの「ビーンズキッチン」を開発しました。角があると、どうしてもキッチンの中と外という形になり、ともすれば「あちらは、お母さんの居るところ」といったイメージが生まれます。この「ビーンズキッチン」はダイニングやリビングも取り込み、キッチンの中と外というバリアを取り払い、自分がどのエリアにいるかを意識することなく自然に料理を作り、またクレバーストレージという考え方を取り入れることで、誰もがもののありかを簡単に知ることができ、片付けも簡単にできるようにしました。

ダイニングテーブルは、床座にもなる高さ調節をつけることで、食事だけではなく、調理台や勉強机、またパーティーなど、様々な生活シーンに対応できます。

夕食時間がまちまちな家族も、何かと話をしながらそれぞれ思い思いに過ごすことができます。デスクコーナーで調べ物をする人、畳の上で大の字になりリフレッシュする人、ダイニングテーブルで勉強をする人、思い思いでありながら、ほかの家族と一緒にいる安心感があります。一見リビングが手狭なようにも見えますが、ここは、夜に夫婦だけがくつろげればよしとしています。

日々の食事は、心と体の健康にとって特に大切なものです。食事を生むキッチンこそ家の中心にあるのが本来の姿なのかもしれません。研究をしていく中で「それって、囲炉裏に人が集まるようなことね」とか「竪穴式住居の真ん中に火があるのと同じね」などの意見が出ましたが、人が温かい料理の回りに集まるのは、大昔から自然のことなのかもしれません。

この「ビーンズキッチン」の研究が、幸せで健康な家庭を望む多くの家族のヒントになり、また女性たちが家事と仕事の間で悩むことがなく生きいきと社会で活躍できる一助になれば幸いです。

インテリアコーディネーター協会関西  
みんなのキッチン研究会



## 9. 添付資料

別添資料1-1：アンケート（自由回答）まとめ

別添資料1-2：アンケート回収結果（円グラフ）

別添資料2：メーカーヒアリングシート

別添資料3：キッチン用品リストアップ

別添資料4：インテリアコーディネーター協会関西紹介